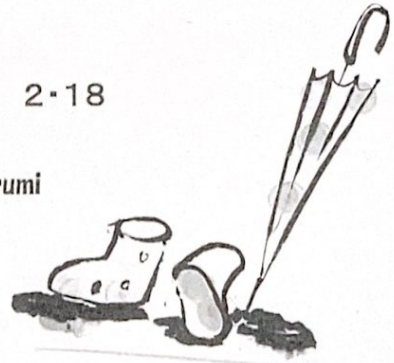
母塾

VOl・33　2020・2・18

新小岩幼稚園・未就園児クラス　illustrated by kurumi



『あの手　この手　でいこう』猪之鼻　晴子

子どもが5人通った松江小学校は「子だくさん学校」でした。
お友だちは8人きょうだい、7人きょうだいがいます。うちは6人で3位でした。
4人、5人きょうだいも居て、「私は何人も校長先生を知っている」と言う話になるほど。
7人子どもがいるユキコさんとは今でもよく会います。
そして会うたびにユキコさんは悩んでいます。「聞いて。長男がね。」
もうご結婚されてお子さんもいるご長男のことで悩んでいたりするのです。
まだ悩みは続くんだ。と私はいつまでもがんばっている彼女に関心しています。
そして同時に「まだ先は長いんだな」と自分にガソリンを入れ直しています。

子どもは2才になるとこうなって、小学校にあがるとこうなって、反抗期があって、
成人すると手を離れていって子育て終了。というだいたいの道筋があればもう7人も
育てればベテランでしょう。それでも違う悩みが毎日やってきます。我が家もまったく同じです。
それはやはり子どもの「性質の違い」にあると最近つくづく感じるようになりました。
6人いたら6人とも当たり前ですが、まったく反応が違うのです。その子に合った「一手」を
発見しないと次に進まないのです。

人は身体の特徴によって性格の特徴も違うそうです。
最近昭和初期の野口晴哉氏の文献を読み、目から鱗が何枚も落ちました。
家族でも考え方の違いがこうも違うのは身体が違うからなのか。と考えると合点がいきます。
何かする時の基準が「理想」「損得」「好き嫌い」「勝ち負け」「あまのじゃく」などいろいろです。
「〇〇ちゃんはもうできるんだってね」と言うと、嫌がる子・平気な子・俄然ヤル気の出る子が
いるのです。ひとと比べてはいけないというのは一般論です。
ルールを作って「これを守ろうね」と言うと、反発する子・安定して喜んで従う子がいるのです。
「〇〇ちゃんならできるよね」と言うと張り切る子。
「〇〇ちゃんにはこれできないよね」と言うと張り切る子。

ママとは違う人間たちと暮らしていくのですから、「あの手この手」を増やしていけば
いいのだと思います。違ったらまた他の手に変えればいいのです。
ひとの特徴に良いも悪いもないのです。ただ違いがあるだけです。
私も子どもたちと自分の違いに毎日驚いて次の手を考えます。「そう来ますか」と。

参考文献・『体癖』・『叱り方　褒め方』　野口晴哉・著

harukoinohana1717@gmail.com